

2017年度東北芸術工科大学入学式 祝辞

2017年4月7日金曜日  
京都造形芸術大学学長 尾池和夫

東北芸術工科大学に入学された皆さん、大学院に進学あるいは入学された皆さん、再入学、編入学の皆さん、おめでとうございます。同じ「藝術立国之碑」が建立されている志を同じくする京都の瓜生山学園京都造形芸術大学を代表して、今日の634名の皆さまに心からお祝いを申し上げます。ご家族の皆さま、おめでとうございます。

この大学の卒業式と入学式にはいつもみごとな啓翁桜が壇上に活けられています。この桜は、1930年に作り出されたと聞きました。山形県が出荷量日本1で、山形の気候と確かな技術で12月中旬から4月初めまで、鑑賞用の切枝を全国に出荷しています。このみごとな桜を出荷する会社にも、この大学の卒業生がいて活躍しているという話を聞きました。今年3月の卒業式で、東北芸術工科大学の開学からの学士9233名、修士888名、博士8名となったとうかがいました。1万人を超える出身者のいる大学になりました。

学生の間にはしかできないことがたくさんあります。これから皆さんの学習が始まりますが、課外活動やボランティア活動にも、大いに参加してほしいと思います。例えば、さきほど皆さんを歓迎して太鼓の演奏をされた「太恵」も、皆さんの先輩たちの活動です。太鼓は縄文時代から情報伝達に使われていたと言われます。山形は国宝の縄文の女神、石斧、縄文後期の土器、青銅の刀、彩文土器など、高度の縄文文化が生まれた土地です。

この大学と姉妹関係の京都造形芸術大学は、1300年の歴史を持つ京都市にあり、大陸から渡来した秦氏が都の文化を生み出す下地をつくりました。この大学にある『藝術立国之碑』と同じ黒御影石の碑が、京都造形芸術大学にも大階段を登ったところにあって、その碑の3行の言葉が、両方の大学に共通の基本理念を示しています。

京都造形芸術大学文明哲学研究所の田中勝先生は、この大学の学生と京都造形芸術大学の学生との交流を熱心に推進しています。毎年5名程度の学生を選抜して、相互に大学を訪問し、そこで貴重な体験をする機会を作ります。田中勝先生は、世界で初の原爆開発と製造が行われた、アメリカ合衆国ロスアラモスで、今年の3月、ドキュメンタリー映画『ノーモア広島ノーモア長崎』上映会を行いました。この映画は、ユキ・ナカムラ(Yukiko Nakamura)監督で、広島と長崎の被爆者の方々とともに田中勝とベッツィ・ミラー・キューズも出演したものです。会場は満席だったそうです。上映が始まる前に「キノコ雲の上の議論ではなく、キノコ雲の下で起こった出来事に耳を傾けて頂ければ」と、品川俊子さんが家族の体験を語り、映画の上映後には、しばらくの沈黙の後、たくさんの質問があったそうです。ユキ・ナカムラ監督は「政治的議論ではなく、生命の語らいを続けましょう。大切なことは過去ではなく今、そして未来です」と語り、ベッツィは「私と勝は、アートを通して出会い、語らいの場をつくり、これからも語り続けていきたい」と語ったと聞きました。

その一方で今年3月28日には、たいへん残念なニュースが伝えられました。ニューヨークからのニュースで、日本の軍縮会議代表部大使は、27日、国連本部で始まった核兵器を法的に禁止する条約の交渉会議で演説し、条約交渉について「国際社会の分断を一層深め、核兵器のない世界を遠ざける」と指摘した上で、「現状では交渉会議に建設的かつ誠実に参加することは困難だ」と交渉への不参加を表明しました。岸田文雄外務大臣も28日の閣議後の記者会見で「今後この交渉には参加しないことにした」と説明しました。世界で唯一の被爆国として核廃絶を訴えてきた日本が、条約交渉への参加を見送ったのです。オーストリアやコスタリカなどの代表が核兵器の非人道性や条約締結の必要性などを訴えたのに対して、米英仏中ロなど核保有国と、米国の同盟国の大半は欠席し、さらに、ヘイリー米国連大使が約20か国の国連大使らと共に条約に反対する声明を読み上げました。

人類は核兵器や原子力発電所の核燃料物質を産み出しました。これらをなくすことが人類の今の使命であるはずですが、その実現への道は遠いと思います。しかしこの道を探すことは、東北芸術工科大学と京都造形芸術大学の、ともに掲げる理念にも関係します。

田中勝先生の活動をもとにした「芸術平和学」は、東北芸術工科大学と京都造形芸術大学の両方に立っている「芸術立国之碑」の基本理念を表す一つの講義であり、両大学が目指す芸術活動の世界平和への貢献を目標とする道筋の一つです。今年も皆さんの中からぜひ両大学の交流に参加して京都を訪問する方が出てくださることを期待しています。

あらためて、ご入学、まことにおめでとうございます。  
ありがとうございました。